

# SDGs達成へのアプローチ

## —教育芸術社の取り組み

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



教育芸術社は、「学校教育の場から、日本の音楽教育、音楽文化を支援する」という理念のもと、昭和23年の創業以来70年以上にわたり、音楽教科書・教材の出版事業を続けてまいりました。そうした長年の経験やノウハウを土台にして、世界の共通目標として掲げられた**持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)\***の達成に向け、事業を通じて貢献していきます。

\*SDGsとは、2030年までに貧困や飢餓、教育、エネルギー、気候変動、平和的社会等の課題に対して解決策を見だし、持続可能でよりよい世界を目指すための国際目標です。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載されました。17のゴール・169のターゲットで構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。

#### 教育芸術社の取り組みにおける「3つの柱」

1. 質の高い教科書・教材の出版事業
2. 「音楽」「教育」をキーワードにしたサステナビリティ活動
3. 機関誌を通じた最新のSDGsコンテンツの発信

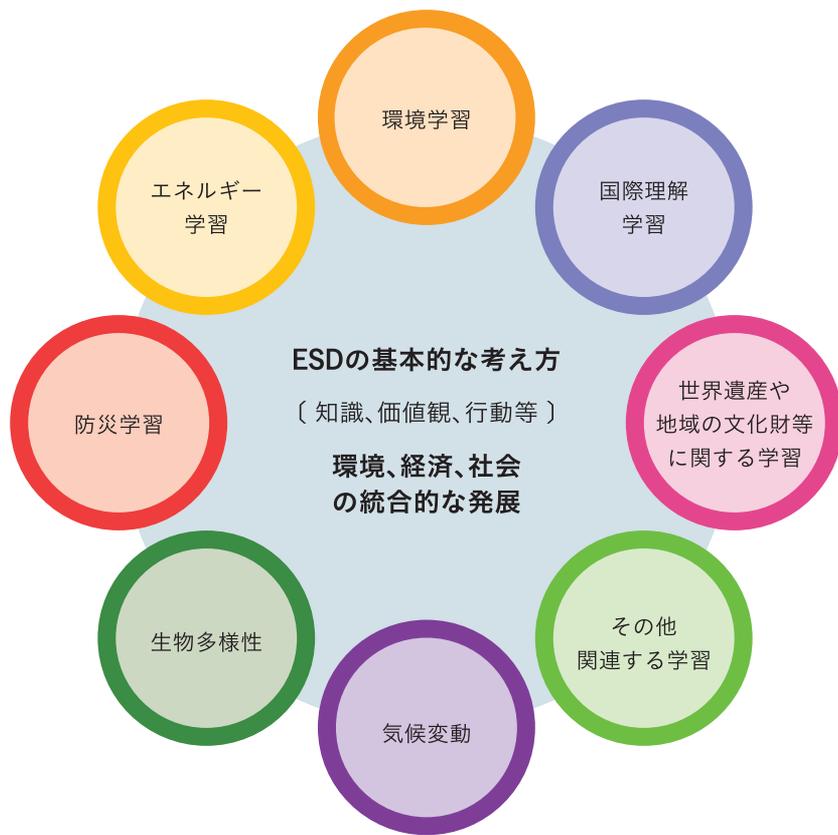


# 1. 質の高い教科書・教材の出版事業

## ● ESDにつながる教科書づくり

教育芸術社では、従来から持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development: ESD)\* につながる楽曲や教材の開発に力を入れてまいりました。新曲の開発においては、歌詞の中に「環境」や「文化」、「多様性の尊重」といった視点を取り入れ、鑑賞分野では「地域の文化」を愛し、「国際理解」をも深められる紙面づくりを行っています。

\* ESDとは、「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」と定義されています。具体的には、環境・貧困・人権・平和・開発といった地球規模の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより、それらの解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動を意味します。



文部科学省「持続可能な開発のための教育(ESD)」より

## 環境に配慮した教科書づくり

[製紙] → [印刷] → [製本] という工程において、関係各社と連携して環境に配慮した教科書づくりを目指しています。

### 製紙

健全な森林を育てるためには適切な間伐を行うことが必要です。紙の原料(パルプ)には、間伐材の他、製材工場で残った端材などが有効活用されています。

### 印刷

発色がよく、環境にも優しい植物油インキが用いられています。排水はpH計でチェックし、不純物や溶剤が混ざらないよう浄化して海水を守ります。

### 製本

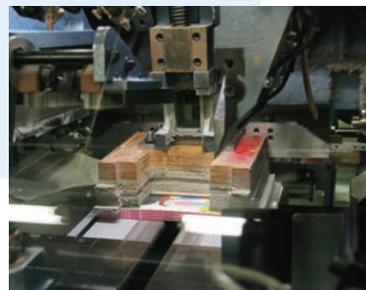
裁断するときに出る切れ端は、工場内に取り付けられたホースで吸い上げ、トイレトーパーなどの原材料としてリサイクルされます。



紙の原料となる木材チップ



インキの調肉作業



断裁機



12 つくる責任  
つかう責任



14 海の豊かさを  
守ろう



15 陸の豊かさも  
守ろう





## 2. 「音楽」「教育」をキーワードにしたサステナビリティ活動

### Case 1 音楽教育の普及に向けた取り組み [ベトナム・カンボジア]

各機関からの依頼により、ベトナムやカンボジアから視察団をお迎えし、教科書の編集や文科省による検定プロセスなどについてご紹介。教科としての音楽を確立し充実させていくためのノウハウを提供するとともに、私たちにとっても教育におけるサステナビリティ(持続可能性)について考え、教科書づくりを見つめ直すよい機会になりました。



ベトナムからの視察団

文部科学省「EDU-Port ニッポン」(官民協働による日本型教育の海外展開推進事業)における公認プロジェクトに採択されたヤマハ株式会社との連携によるもの



カンボジアからの視察団

「特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会」と国際協力機構(JICA)によるカンボジア王国「初等科芸術教育支援事業」の一環として実施



[https://www.kyogei.co.jp/Portals/0/pdf/sdgs/2\\_case1.pdf](https://www.kyogei.co.jp/Portals/0/pdf/sdgs/2_case1.pdf)  
視察に関する詳しいレポートをお読みいただけます。

### Case 2 シリア難民キャンプへの五線ノート寄贈 [シリア・ヨルダン]

NPO法人 国境なき子どもたち(KnK)との連携事業として、難民キャンプの学校で学ぶ子どもたちに、五線ノート『Music Sketch』を寄贈。ノートを配布するとき、現地の教員が子どもたちに次のようなメッセージを伝えてくださいました。

このノートに、自分たちがもっているすてきな音楽を記録していったら、いつかシリアに戻ったときにその曲をいつでも歌えるように、また弟や妹に教えられるように、大事に使ってください。音楽は世界共通の言語ですから。



ノートに音符を書き込む少女



[https://www.kyogei.co.jp/data\\_room/bouquet/no3\\_wr.html](https://www.kyogei.co.jp/data_room/bouquet/no3_wr.html)  
シリア難民キャンプで行われている音楽の授業の動画をご覧ください。

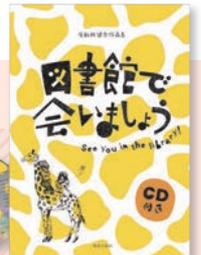
### Case 3 “図書館で会いましょう”プロジェクト [南アフリカ]

作曲家 弓削田健介<sup>ゆげ たけんすけ</sup>さんの作品集『図書館で会いましょう』から生まれたプロジェクト。南アフリカの子どもたちに「移動図書館車」と「歌」を届けるという2本の柱で構成されています。

NPO法人SAPESI(南アフリカ初等教育支援の会)との連携事業として2017年にスタートして以来、作品集の収益による移動図書館車の寄贈を実現するとともに、作品集のテーマソングである『図書館で会いましょう』の英語版を制作するなどの活動を行ってきました。

弓削田健介作品集『図書館で会いましょう』  
(教育芸術社)

作品集には、読書の楽しさを伝えたいという弓削田さんの思いで作曲された、図書館や本をテーマにした歌の数々が収められています。



↓ 移動図書館車の前で現地の先生方と



[https://www.kyogei.co.jp/library\\_project/](https://www.kyogei.co.jp/library_project/)  
弓削田健介さんと教育芸術社の編集部員による南アフリカ訪問の動画をご覧ください。



移動図書館車の中で本を探す子どもたち



# 3. 機関誌を通じた最新のSDGsコンテンツの発信

教育芸術社では、学校・教育関係者に向けた2種類の機関誌『音楽教育 Vent [ヴァン]』『bouquet [ブーケ]』を発行しています。著名人へのインタビューや対談をはじめ、世界各地からのレポートなど多彩な内容で構成され、SDGsに関するコンテンツもいち早くお届けします。

## 子どもたちの未来のために

**編集部:** 国谷さんは現在、どのような活動を大切になさっていますか？

**国谷:** 2つありまして、1つはジェンダー問題に関する活動です。日本には、人口減少に悩んでいる地域が多く存在しますが、その原因の1つに、性別による役割分担意識が根強く残っていることが挙げられます。そのような地域で生まれた女性たちは、都市の大学へ進学したまま帰ってこないことが少なくありません。女性は自分の活躍できない場所に戻ろうとは思わないからです。女性たちが帰らなければ、その地域の人口減少は進んでしまいます。この問題を解消するためには、全国に女性たちが活躍できる環境をつくり、活躍に対して正当な評価をする。それらを飛躍的に広げていくことが必要です。さらに女性たちの発想を取り入れることで、社会をよりよく変えられるのではないかと思います。2009年頃からこれらのことを積極的に提案してきました。

**編集部:** もう1つの活動は？

**国谷:** SDGsの認知を広げる活動をしています。私たち人間の生命を維持してくれている地球のメカニズムはすでに限界のところまできており、特に温暖化問題は深刻です。地球の気温が1度上がると、大気中の水蒸気が7%増加しますが、増えた分の雨はまんべんなく降ってくれるわけではありません。1か所にゲリラ豪雨が降れば大災害を引き起こしますし、一方で全く雨の降らない地域が出てくることも。また、秋と冬に海水温が20度を下回らないと

コンブやワカメが育ちません。海の中の二酸化炭素を吸収してくれる海中林や生物がいなくなる「磯枯れ」は、絶対に防がなくてはならない事態です。温暖化のスピードは、過去に専門家が予測していたよりも早まっています。パリ協定に基づく温室効果ガスの削減などの目標が達成されなければ、今世紀末までに東南アジアの気温は6度、最悪の場合8度上昇し、米の収穫量は半分以下になるという報告書も出ています。温暖化で最大の危機となるのは水と食料の問題です。

**編集部:** 私たち一人一人にできることはありますか？

**国谷:** 大切なのは、この社会課題を他人事ではなく「自分事」として意識し行動することです。これからの時代は先進国が自分たちを変革する必要があります。とりわけ大量生産、大量消費、大量廃棄、大量資源消費をなくさなくてはなりません。世界は少しずつ変化していて、ガソリン車の販売中止を表明する国が増えており、イギリスも2035年からガソリン車とディーゼル車の販売を禁止すると発表しました。今後はSDGsの浸透でイノベーションやリサイクルシステムなど、新たなビジネスも出てくることでしょう。子どもたちがこれから生きていく世界と、子どもたちの将来のために、私たちは今、世界中の人々と連携していくことが必要です。



国谷裕子さん(キャスター)

アメリカのブラウン大学卒業。1981年からNHKの報道番組等にレギュラー出演し、1993年～2016年3月までNHK総合テレビ「クローズアップ現代」のキャスターを担当した。現在、FAO(国連食糧農業機関)親善大使(日本担当)、東京藝術大学理事。

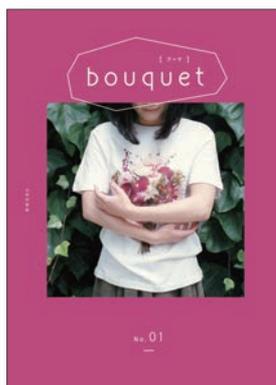
『音楽教育 Vent [ヴァン]』35号  
巻頭インタビューより再構成  
撮影：島崎信一

『音楽教育 Vent [ヴァン]』『bouquet [ブーケ]』のバックナンバーは、教育芸術社のホームページでお読みいただけます。



『音楽教育 Vent [ヴァン]』

[https://www.kyogei.co.jp/data\\_room/vent/](https://www.kyogei.co.jp/data_room/vent/)



『bouquet [ブーケ]』

[https://www.kyogei.co.jp/data\\_room/bouquet/](https://www.kyogei.co.jp/data_room/bouquet/)



株式会社  
教育芸術社  
KYO-GEI (代表者 市川かおり)

〒171-0051 東京都豊島区長崎1-12-15  
TEL. 03-3957-1175 (代)  
FAX. 03-3957-1174  
<https://www.kyogei.co.jp/>